

新市庁舎建設に係る説明会【質問と回答】

日時 令和6年2月17日(土) 10:30～

会場 釜石市民ホール TETTO ホールB

質問①

新市庁舎1階の「みんなのホール」について、どのような活用方法が想定されるか。また、市民ホールなどの既存施設との関連性や使い分けをどのように考えているのか。

回答①

市民の憩いの場として整備する。例えば学生であれば学習スペースとしての活用が可能。展示・掲示も想定されるが、市民ホールのように個別に貸し出すような利用方法は想定していない。その他、行政の業務としては健康診断や期日前投票所などでの活用を考えている。

質問②

新市庁舎建設の財源計画について、前回の市議会で説明された国庫補助額、市債、基金などの金額が今回配付された資料と異なっているのではないか。

回答②

財源計画の国庫補助、市債、基金の金額については、確定していない要素もあるが、今回、議会にも説明している最新の財源計画をお示しした。また、前回の市議会では一部工事の入札手続きが終了しておらず、工事の金額が決定していなかったが、先般入札が執行されたことから現時点での最新の概算事業費としてお示しした。

質問③

敷地を盛り土することで生じる勾配の対応策を教えてください。

回答③

各種法令を遵守した対応となる。例えば車いす用通路の勾配については「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」の基準に適合する計画としている。

質問④

日本海溝を震源とする地震・津波の被害予測の影響で1～2m盛り土を行うとあるが、岩手県が発表した浸水想定では現地が3～4m浸水すると言われている。この予測を受けて、最終的には何メートルの盛り土を行うのか。

回答④

岩手県が発表した浸水想定は、あくまで避難のために活用するものであることから、防潮堤や防波堤が機能することを前提として1～2mの盛り土という計画に変更はない。但し、この浸水想定を軽視するということではなく、万が一津波が発生した際には、避難者は庁舎の2階以上に避難していただき、庁舎の1階には重要書類や機器類を極力設置しない計画とした。

質問⑤

現地に盛り土により、地盤沈下が起こる可能性はあるか。

回答⑤

盛り土を適正に施工し、建築物には杭基礎を使用するため、地盤沈下する可能性は無いものと考えている。

質問⑥

新市庁舎の屋上にヘリポートはできないのか。

回答⑥

過去に検討しているが、山合いの狭隘な土地であることから事故が懸念されるため不相当であるとの結論に至った。なお、ヘリコプターを庁舎上空に待機させての救援物資の投下などは可能との判断がなされている。

質問⑦

日照について、縦断的な資料が示されていない。庁舎が建設されることで、日陰がどの程度できるものか示してほしい。

回答⑦

日照については建築基準法など各種法令等に則り調査、計画をしている。
※説明会終了後、質問者に対して資料を提示した。

質問⑧

強風時は土埃が発生するので防塵対策をしっかりとしてほしい。また、西側に高性能防音壁を設置するとあるが北側には設置しないのか。

回答⑧

近隣住民の方への影響は極力少なくしたいと考えている。高性能防音壁については工事現場に特に近接している西側を優先させていただいた。工事を進める中で土埃や騒音について何かあれば、遠慮なくその都度ご連絡いただきたい。

質問⑨

能登半島地震の報道の影響もあり、避難所としての機能が非常に気になっている。新市庁舎の給水タンクの容量や燃料・食料の備蓄量を教えていただきたい。

回答⑨

タンクの容量として飲用が15t、非飲用が18tであり、避難者が概ね一週間程度使用できる量を確保する計画である。庁舎内には防災倉庫を作る計画であり、備蓄する品目については今後関連部署と調整のうえ決定する。

質問⑩

庁舎が避難所となった場合、支援物資は搬入されるのか。津波で物資が搬入される道も閉ざされ、ヘリポートも無い施設で避難所として機能するのか。

回答⑩

新市庁舎は一次避難場所ではあるが拠点避難所ではないため、避難者は受け入れ準備が整い次第、拠点避難所に移っていただくことになる。なお、大津波警報が発令した場合、災害対策本部は小佐野町の市立図書館内に置かれるため、物資についても全てそこでコントロールすることになる。また、補足ではあるが現在はハーフインターチェンジである両石ICを、災害発生時には上り線・下り線の両側から降りられるようにすることも可能であると国から伺っており、さらには両石ICのフルインターチェンジ化について要望している。これが現実となれば庁舎機能の強化にも繋がるため、継続して要望を続けていく。

(質疑応答は以上)